

平成30年度 河川砂防技術研究開発公募
 地域課題分野 新規課題 研究開発テーマ

テーマ名および概要		研究代表者名
テーマ	久慈川を対象とした過去の治水システムが超過洪水時の氾濫被害に及ぼす影響に関する研究	九州大学 巖島 怜
概要	久慈川水系を対象に、超過洪水による氾濫リスクの低減を目的とし、過去の治水システム(霞堤群や地先防御のための構造物等)が浸水プロセスに及ぼす影響を明らかにする。	
テーマ	開口部を有する斜め堰が河床変動、流砂および乱流構造に与える影響に関する研究	熊本大学 大本 照憲
概要	本研究は、一級河川・白川の斜め堰に開口部を設けることで治水、利水および環境の機能改善をはかることを目的とする。	
テーマ	物部川河口部における洪水流による礫州の破壊機構と河口閉塞対策に関する研究	中央大学 竹村 吉晴
概要	物部川河口の礫州破壊の解析モデルの開発及び現地調査から洪水流による礫州の破壊機構を解明し、河口閉塞の発生頻度低減に効果的な礫州の掘削方法を検討する。	
テーマ	宮崎県小丸川流域における治水と生態系の総合評価のためのモデル開発	宮崎大学 糠澤 桂
概要	流出解析に基づいて気象条件の変化に伴う流域内における氾濫リスクと生態系の応答を評価可能な枠組みの構築を試みる。	
テーマ	流木災害対策に資する流木資源化・利用システム開発	中央大学 松下 潤
概要	本研究では、亜臨界水技術による流木の資源化・利用システムを開発し、流木対策の適正化に資する河川管理モデルの実装をめざす。	
テーマ	荒川中流域の支川群を対象とした貯留効果と生態的機能の評価に基づく植生管理手法の提案	埼玉大学 溝口 裕太
概要	植生が有する洪水流の貯留効果と生態的機能を評価し、複数の支川の河道内植生を一体的に管理する手法を提案する。	

(五十音順, 敬称略)